

2月選抜

令和2年度 人間発達教育専攻
教育コミュニケーションコース 試験問題

受験番号

--	--	--	--	--	--

令和2年度 人間発達教育専攻
教育コミュニケーションコース 試験問題

注意事項

1. 問題Ⅰ～問題Ⅲのすべてに解答せよ。
2. 解答に際しては、解答用紙の問題番号に合わせて、解答用紙1枚につき1問題の解答をすること。

問題Ⅰ 「社会化」の観点からの学校教育の社会的機能を踏まえつつ、グローバル化が進行する現代社会における学校教育の課題とその対応策について、具体例を挙げながら論ぜよ。

問題Ⅱ

問1 明治以降の小学校における「遅刻の誕生」について説明せよ。その際、「時間割」という言葉を用いること。

問2 時間割を厳密にすることで生じ得る学校教育上のパラドックス（逆説）について説明せよ。

問題Ⅲ 次の文章を読み、下の問い（問1）に答えよ。

心理学の知見は「使える」「役に立つ」知識として、世間に多く出回っている。だがその知識は、時に、もともとの研究結果の枠組みを超えて、都合良く誇張あるいは改変されてしまう場合がある。有名な例の一つが「メラビアンの法則」である。コミュニケーションにおいては、言語情報よりも非言語情報が重要だとするメラビアン（Mehrabian）による知見をもとにしたものであるが、時には「コミュニケーションで大事なものは、話の内容よりも見た目だ」という説となって、喧伝されることもある。そうした事態は、メラビアンの実験結果に基づくというよりも、それを拡大解釈しているといわざるをえない。

実際にメラビアンが行った実験では、否定的・中立的・肯定的な感情や態度を表す言葉を、それぞれ声の調子を変えて言った場合に、聞き手はそこに現れた感情をどのように受け取るかが検討された。否定的な言葉の例は「ダメ」、中立的な言葉の例は「たぶんね」、肯定的な言葉の例は「ありがとう」であり、用いた語はすべて一語からなる単語であった。それらを、いやそうな感じ（否定的な声の調子）、うれしそうな感じ（肯定的な声の調子）、いやでもうれしそうでない感じ（中立的な声の調子）で言った場合、聞き手がその言葉をどのように判断するかということである。実験参加者たちは、録音された音声（女性2人による音声を録音したもの）を聞き、それぞれの音声の印象について、否定的か肯定的かをとらえる次元で回答した。その際、「言葉の意味だけに注目してください」、「声の調子だけに注目してください」、「言葉の意味と声の調子の両方に注目してください」、のいずれかの指示が各実験参加者に与えられた。

結果のうち、「メラビアンの法則」に関連するところを抜粋して要約すると以下の通りである。「言葉の意味だけに注目」の指示を受けた群は、言葉の意味が肯定的なものになるほど、また、声の調子が肯定的になるほど、肯定的な言葉として評定していた。だが、「声の調子だけに注目」の指示を受けた群と「言葉の意味と声の調子の両方に注目」の指示を受けた群は、声の調子が肯定的になるほど肯定的な言葉として評定していたが、言葉の意味との対応は不明瞭であった。また、「言葉の意味だけに注目」した群以外は、否定的な意味の言葉を肯定的な声の調子で言った場合には肯定的な言葉として、肯定的な意味の言葉を否定的な声の調子で言った場合には否定的な言葉として評定していた。これらのことから、言葉の意味と声の調子が矛盾する場合は、その言葉の内容よりも言い方がより注目されるようだと考えられた。

問1 メラビアンの研究結果を「コミュニケーションで大事なものは、話の内容よりも見た目だ」という主張の根拠に使うことができないのはなぜか、論ぜよ。